

広野

Obihiro City Hirono Elementary School

学校だより NO. 7
令和3年 6月 8日

帯広市立広野小学校
文責 校長 新川 和範



培土の様子を見学しました



ほくは、白樺の妖精ばんば「しらかんば」です。十勝晴れと農業が大好きです。(帯広市の広報マスコットキャラクターです。)



先日植えたジャガイモも順調に発芽し、培土の時期となりました。培土とは、作物の栽培において、作物の株際(かぶぎわ)に土を寄せる作業をいい、土寄せともいいます。今回も櫻井さんに作業をお願いしました。

今回は、トラクターに取り付けられた培土器の間隔を微調整している様子から見学させていただきました。このような光景を見る機会がある児童もいると思いますが、今回、あらためて作業の様子を見学して、農業の仕事や従事している人について理解する機会になったと感じました。



作業時には、トラクターが進む様子を、後方から見学させていただきましたが、児童も先生方も、進むと同時に土を起こしながらうねがたっていく様子に、しばし見とれていました。そして、まるでチョコレートケーキのようになった畑をじっと見つめている児童の様子が印象的でした。

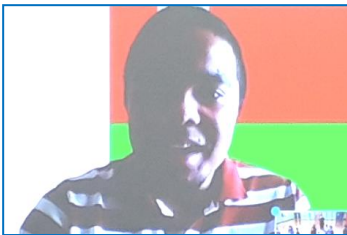
3, 4年生は理科の学習でジャガイモの観察を行っていることもあり、作業見学後、うねをたたせる理由や櫻井農場で育てているジャガイモの種類、ジャガイモの特徴について質問していました。それに対して、櫻井さんがわかりやすく回答してくださいました。

今回は、学年ごとに時間差で見学させていただきましたが、どの学年もお礼を言って見学が終了しました。今後も引き続き、水やり等のお世話や観察を続けて、大切に育てていきたいと考えております。

櫻井さん、お忙しい時期にもかかわらず、ご協力いただきまして、本当にありがとうございました。



JICA 研修員とのオンライン交流学習



6月2日(水)、外国語科の水谷先生の学習において、JICA北海道(帯広)の長期研修員であるマダガスカル出身のLaza(以下、ラザ)さんとZoomを用いて、マダガスカルという国の自然や文化を知り、多文化共生について疑似体験するという内容のオンライン交流学習を行いました。

はじめに、ラザさんからマダガスカルの概要について、True or False(うそ、ほんとうクイズ)を用いて説明していただきました。

次にラザさんが日本滞在中に感じた、日本人の行動とマダガスカル人の行動のちがいをもとに考えたカードを使って、カードに書かれている内容が、マダガスカル



のことか日本のことかを話し合っ分る活動を行いました。話し合いの途中には、グループごとに水谷先生がサポートしながら、ラザさんと英語で自己紹介も行いました。

その後、正解を確認しましたが、カード裏面には盆栽とバオバブの木が印刷されており、すぐに正解がわかるように工夫されていました。5, 6年生のみなさんは、文化の違いをはっきり認識することができていたようです。

最後に、水谷先生が「他国の文化を学ぶことによって、自分の国の文化を認識することができること」や「他国に行った時には、学びをもとに文化や習慣を尊重して行動することになるが、このように相手を学ぶという学習は、外国に行くといった場合だけではなく、高校に進学した時等、自分の生活圏が変化した時にも活用できる」と結ばれたのが、大変印象に残りました。ラザさん、水谷先生、貴重な機会を本当にありがとうございました。





授業研修を行いました

今年度は、国語科で「自分の思いや考えをもち、表現する子どもの育成」を主題とした校内研修を進めております。

5月17日(月)には、3,4年生学級(担任：山田 香教諭)において、今年度、第1回授業研修を行いました。

今後、学習のリーダーを中心に学習を進めていく「広野スタイル」の更なる定着と、児童の読解力を基盤とした表現力の育成を目指して、教職員一同、研修を進めてまいります。



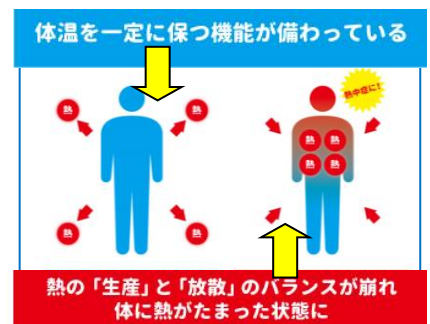
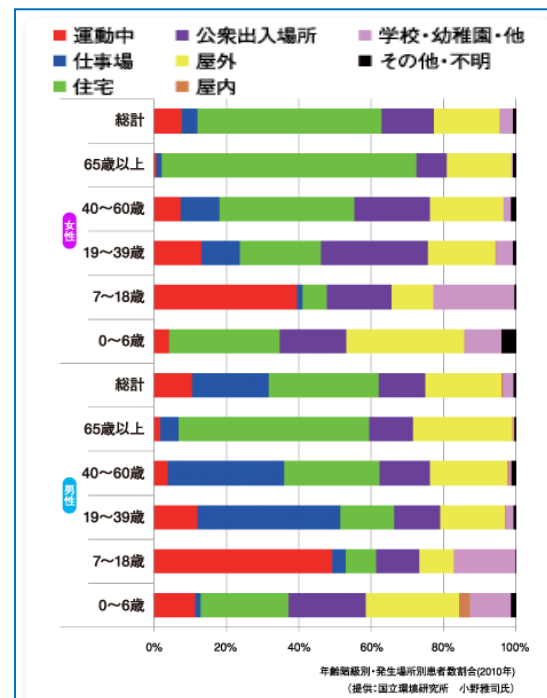
熱中症に注意



日本気象協会/ALINK インターネットの2週間天気予報によりますと、今後、帯広市では、最高気温が20度を超える日が続くようです。気温が高くなると、熱中症になる危険性が高くなるといわれています。

人の身体は、常に熱を作り出す一方、汗をかいたり、皮膚から熱を逃がしたりすることで、体温の上昇を抑えています。気温が高いことなどで、このような体温の調節機能がうまく働かず、体内に熱がこもり、体温が異常に上昇し、熱中症は起こります。

熱中症の原因には、まず気温が思い浮かびますが、気温が高いときにだけ熱中症に気をつけなければならないわけではありません。気温が高くなくても、湿度が高いときや陽差しが強いとき、風が弱い時、環境省が発表している「暑さ指数」が高いときなど、条件次第で危険度はグッと上昇します。



また、炎天下の屋外にさえいなければ防げるというイメージもちがちですが、屋内でも十分な注意が必要です。40歳くらいまでは屋外や運動中・作業中の熱中症発症が多い一方、40歳を超えると、住宅を中心とした屋内での発症率が目立っており、知らず知らずに熱中症になっているケースが多いようです。

熱中症は、水分をとること、部屋を涼しくすること、休憩をとること、栄養を摂ることで防げる気象災害といわれています。地域や保護者の皆様も、これからの季節、声をかけあいながら十分に気をつけていただきたいと思います。

本校でも、担任を中心に教職員全員で児童の健康観察を随時行うとともに、扇風機と網戸を活用して空気の循環をよくする、児童の水分補給を30分ごとに行う、必要に応じてマスクの着脱を指示するなどの取組を行っています。保護者の皆様におかれましては、引き続き、児童への**気温にあった**



服装(涼しい服装や脱ぎ着しやすい服装)や登下校時の帽子着用、水筒(マイボトル)の持参等の配慮をお願いいたします。



マンガを寄贈していただきました

6月1日(火)に、酪農や農業について興味をもってほしいと、阿寒農協青年部長で JA 釧路地区青年部協議会副会長の浅野 達彦さんが、マンガ「銀の匙」と「百姓貴族」を寄贈するため、遠路はるばる広野小学校までお越しくださいました。浅野さんは帯広市立小中学校全校に、寄贈されるそうです。浅野さん、本当にありがとうございました。

